

♪～大豆多収の鍵はマメな雑草・病虫害防除管理です～♪

両沼豆づくり情報 第3号



(令和4年8月3日)

発行：会津農林事務所会津坂下農業普及所（電話0242-83-2112）

〃 金山普及所（電話0241-54-2801）

J A会津よつば各営農経済センター

○8月と9月の栽培管理のポイント

・子実に被害を与える病虫害の適期防除に努めましょう

1 大豆の生育概況

気温は、6月中旬以降は平年並～高く推移しました。今年は梅雨明けが早かったこともあり、降水量は6月以降少なく推移していますが、時期によってはまとまった雨がありました（図1）。

農業総合センター会津地域研究所の作柄解析試験の大豆の生育は、標播は草丈、主茎長、主茎節数、地上部乾物重が平年より良好な生育となっています。6月下旬頃は夜間に降雨、日中は晴れという日が多かったこともあり、生育に必要な水分と日射量を確保

できた結果、標播では生育が旺盛になったと考えられます。開花期は平年並です。一方、晩播での生育量は平年並～小さくなっています（表1）。

管内の大豆の生育も概ね良好な生育となっており、開花は始まっています。雑草が目立つほ場もあります。手取り除草や病虫害防除を行い、収量と品質の向上を目指しましょう。

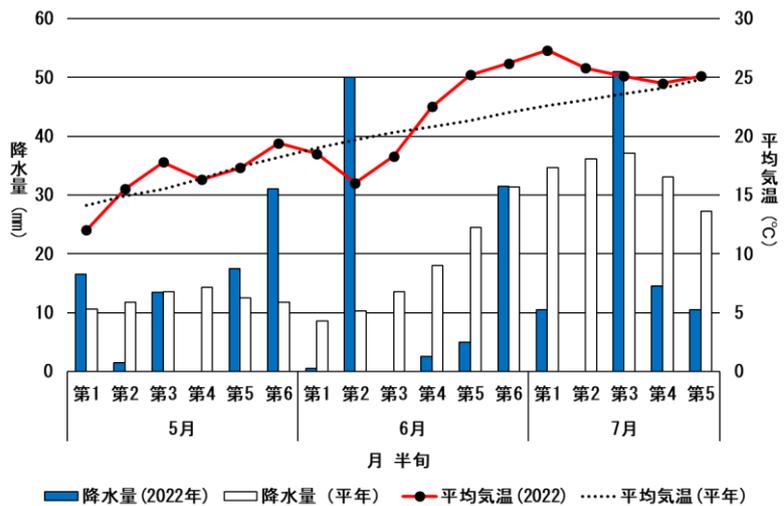


図1 生育期間の気温と降水量の推移
(2022年 AMeDAS若松)

表1 作柄解析試験における生育（農業総合センター会津地域研究所：会津坂下町）

品種名	年次	播種期 (月/日)	出芽期 (月/日)	開花期 (月/日)	生育調査（7月20日）				
					草丈 (cm)	主茎長 (cm)	主茎節数 (節)	分枝数 (本)	地上部 乾物重 (g/m ²)
あやこがね	標播 本年	6/01	6/09	7/23	81.8	49.7	13.3	1.4	215.7
	前年	6/01	6/09	7/24	75.6	47.5	13.3	2.3	169.3
	平年	5/31	6/10	7/25	66.8	40.4	11.6	1.9	144.4
	平年差比	1	-1	-2	122	123	115	74	149
	晩播 本年	6/20	6/28		42.2	21.9	7.4	0.0	62.9
前年	6/21	6/27	8/02	48.5	27.0	7.6	0.2	77.1	
平年	6/20	6/26	8/03	44.9	24.7	7.3	0.2	70.9	
平年差比	0	2		94	89	101	0	89	

注1. 平年；前5カ年の平均値(H29年～R3年) 注2. 今年の中耕培土実施日；標播7月5日、晩播7月15日

2 当面の栽培管理

(1) 干ばつ対策

7月下旬から8月下旬は、大豆の開花初期から子実が肥大する時期にあたり、蒸散量が增大するため、土壌水分の要求量が大きくなります。その時期に開花後10日以上降雨がない場合や、下葉の黄化・落葉または上位葉の裏返りなどが激しくみられる場合は、水田転作大豆では畦間灌水を実施しましょう。

(2) 雑草防除

大豆の草丈より長く伸びたイネ科、タデ科、キク科、アカザ科などの雑草は、収穫作業の妨げや汚損粒発生の原因にもなりますので、8月中旬に一度手取り除草を行いましょう。また、難防除雑草の帰化アサガオ類が発生しているほ場もありますので、よく観察し早急に除去しましょう。

(3) 病害虫防除

子実の肥大が始まる頃と、子実の肥大が概ね進んだ頃の2回（会津平坦地の標播（5月下旬～6月上旬の播種）だと8月中旬と9月上旬頃）を基本として、表2のような薬剤で防除を行いましょう。主な病害虫の特徴や効果の高い防除時期は下のとおりです。

ア 紫斑病対策

開花後20～40日（8月中旬～9月上旬頃）の間に1～2回、莢に十分薬剤が付着するように散布しましょう。粉剤の場合は、ホースで大豆の葉をこすりながら散布します。降雨が多い場合は2回防除しましょう。また、多湿条件で発病が多くなるので、排水をよくしましょう。

イ 害虫対策

(ア) カメムシ類

ホソヘリカメムシ、イチモンジカメムシ、ブチヒゲカメムシが主な加害種で、大豆畑に開花期以降飛来して収穫期まで加害し、子実を変形・変色させます。特に莢伸張期～子実肥大期の加害で被害が大きくなりますので、適期の防除を徹底しましょう。

(イ) マメシクイガ

成虫は体長6mm前後、翅を開いた長さ15mm前後の小型の蛾。莢の内側へ侵入した幼虫が発育中の子実を激しく食害します。薬剤防除は、開花期30日後の子実肥大始期に行います。前年多発したほ場では、さらにその10日後に防除を行うと効果が高まります。

(ウ) フタスジヒメハムシ

成虫の体長は3～4mmで、体色は黄茶色で一對の黒条があります。葉や未熟莢を食害し、莢表面が食害されると子実に黒斑が生じます。子実肥大期に防除を行いましょう。

表2 殺虫殺菌剤と殺虫剤の適用病害虫と使用方法（農薬の登録情報は令和4年7月20日現在のもの）

	農薬名	適用病害虫	希釈倍率・使用量	使用方法	使用時期	使用回数
殺菌剤	スミチオンベルコート粉剤DL	紫斑病、カメムシ類、マメシクイガ	3kg/10a	散布	開花期～若莢期（但し、収穫21日前まで）	4回以内
	Zボルドートレボン粉剤DL		3～4kg/10a	散布	収穫14日前まで	2回以内
殺虫剤	スミチオン乳剤	カメムシ類、マメシクイガ 等	1000倍、100～300L/10a	散布	収穫21日前まで	4回以内
	トレボン乳剤	カメムシ類、フタスジヒメハムシ、マメシクイガ 等	1000倍、100～300L/10a	散布	収穫14日前まで	2回以内
	プレバソンフロアブル5	マメシクイガ、ハスモンヨトウ 等	4000倍、100～300L/10a	散布	収穫7日前まで	2回以内

※ 農薬の成分が同じものもありますので、組み合わせて使用する際は、成分毎の使用回数に注意してください。

☆夏本番となりましたので、熱中症には十分注意しましょう
 ☆適宜水分・塩分補給をして、休憩をとりつつ作業を行いましょう
 ☆農薬は使用基準・使用方法に従い正しく使用しましょう